

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
268	高崎健康福祉大学薬学部細胞生理化学研究室
題名 (原題/訳)	
<p>Risk of childhood leukemia associated with parental smoking and alcohol consumption prior to conception and during pregnancy: the cross-Canada childhood leukemia study.          小児白血病発症危険性と受胎前および妊娠期間中の両親の喫煙とエタノール摂取との関連:カナダ横断小児白血病研究</p>	
執筆者	
MacArthur AC, McBride ML, Spinelli JJ, Tamaro S, Gallagher RP, Theriault G.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Cancer Causes Control. 19(3): 283-295 (2008)	
キーワード	
エタノール、飲酒、喫煙、小児白血病	
要旨	
<p><b>目的:</b>          大規模、症例-対照研究の一環として、小児白血病の発症危険性と両親の自己申告による喫煙ならびに飲酒との関連について評価した。</p> <p><b>方法:</b>          1990-1994年に白血病と診断された0-14歳の小児について、その内容を診断時点の集団ベース情報によって確認した。各々の症例について、年齢、性別、場所を対応させた対照者を地方州政府健康保険名簿から任意に抽出した。危険因子についての情報は個々の子供の両親への面接を通じて得た。両親の喫煙と飲酒の白血病危険率への関連は条件付ロジスティック回帰モデルで解析した。</p> <p><b>結果:</b>          母親の受胎前と妊娠期間中の飲酒は、一週間の飲酒量の増加に依存して小児白血病の危険率の上昇と関連していた(受胎前飲酒、オッズ比=1.37; 妊娠中飲酒、オッズ比=1.39; P&lt;0.05)。同様の結果は急性リンパ性白血病と診断された小児でも得られた。妊娠前後での母親の喫煙によって白血病危険率のオッズ比は上昇したが、統計的に有意ではなかった。周産期での父親の飲酒や喫煙と危険率との関連性は認められなかった。</p> <p><b>結論:</b>          我々の研究は、妊娠前あるいは妊娠期間中の母親の飲酒が小児白血病発症の危険率上昇の原因となっていることを示唆している。</p>	